

日本産真正蜘蛛類の科・属・種の検討 (2)

八木沼健夫

(追手門学院 生物研究室)

Revision of Families, Genera and Species of Japanese Spiders (2)

Takeo YAGINUMA

Biological Laboratory, Otemon Gakuin, Osaka

筆者はさきに二、三の報文(1960, 1961, 1962)において既報未報のものをまとめ、さらに先人の業績をもあわせて科・属・種の検討を試み、かなり多くの学名の整理をした。しかしながら多くのものが未検討未整理のまま残されていたのでその後も引き続いて仕事を進めて来た。今回特に重要なものについてその一部を追加報告する。未だに定期に入らないクモ分類学においては、学名の変更が次々となされねばならないことは残念ではあるが致し方のないことである。多くの方々の御叱正を仰ぐと共に、関係者各位の御協力を願うとする次第である。本篇は同じ題目の1961年版の続篇となるものである。

1. *Pronous minutus* (SAITO, 1939)

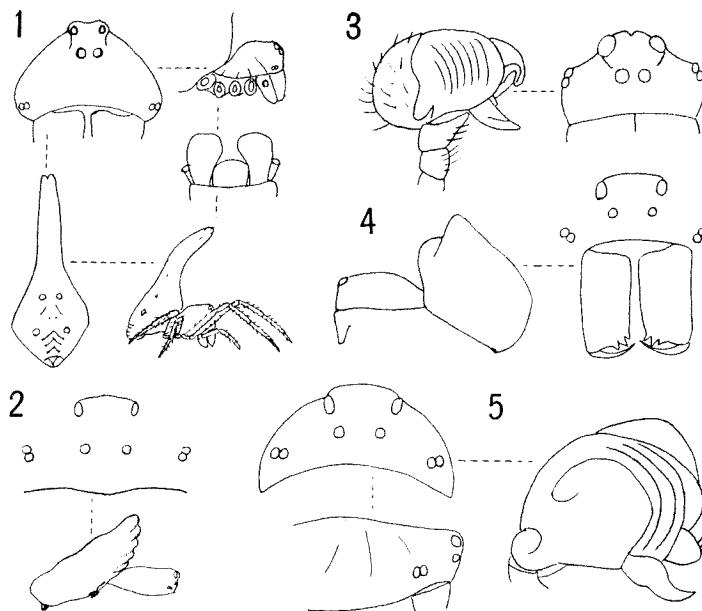
コオニグモモドキ

Wixia minuta, S. SAITO, Saito Ho-on kai Mus. Bull. No. 18, p. 13, 1939 ; T. YAGINUMA, Spiders of Japan in Colour, p. 58, 1960.

コオニグモモドキ *Wixia minuta* に同定されるクモは日本各地(北方に多い)から採集されており、原記載に従って学名がそのまま使用されて来たが、筆者はかねてから *Wixia* とするのに疑問を抱き *Pronous* に転ずべきではないかとの見解を持てて来た。拙著図鑑には原記通り *Wixia* を用いたがその後種々の文献に接し、また多くの材料を検した結果 *Pronous* が最も適した属であることを認めた。

Wixia O.P. CAMBRIDGE, 1882は約15種を含み、主に中南米に分布するクモで、眼の排列ではコオニグモモドキと極めてよく似ているが、その他の標徴にあわない点が多い。たとえ人為分類の立場からこれらを同属とみるにしてもやはり古い方の *Pronous* KEYSERLING, 1880 を用いねばならない。

Wixia の標徴と日本のコオニグモモドキとを比較すると次のようなちがいが見られる。

Fig. 1. *Wixia*, *Pronoides* and *Pronous*

1. *Wixia abdominalis* O.P. CAMBRIDGE (from O.P. CAMBRIDGE, 1882, Pl. XXXI)
2. *Wixia ectypa* (WALCKENAER) (from B.J. KASTON, 1948, Pl. XXXIV)
3. *Pronous tuberculifer* KEYSERLING (from E. SIMON, 1895, p. 856)
4. *Pronoides brunneus* SCHENKEL (from E. SCHENKEL, 1936, p. 121)
5. *Pronous minutus* (SAITO)

	<i>Wixia</i>	コオニグモモドキ
頭部両側	平行で前方が細くならない。	前方で細くなる。
頭 胸 部	側方に溝のふちどりがある、短かく、幅が広い。	ふちどりがない、長い。
歩 腿	短かく、前後脚の長さ大差がない。 刺が多い。	細く長く、前脚は後脚より長い。 刺が少ない。
胸 板	基節に対応する部分隆まる。	隆起していない。
腹 部	中央前方が著しく突出る。腹柄は腹部下面の中央にある	前方に長く突出ない。肩隆起がある。

以上のはかどの palp の構造の点でもコオニグモモドキは *Wixia* にはあわない。

***Pronous* KEYSERLING, 1880 の標徴**

6種を含み、マダガスカル・東南アジア・セーラン・中南米に分布する。

頭胸部はかなり長く、ふちどりがなく低平、胸部は凹みがないかまたは少し凹む。頭

部前方はあまり突出しないでむしろかるく隆まっている。中眼域は垂直で前辺は後辺より小、後中眼は前中眼より大きく突出している。両側眼は小さく同大で接する。歩脚はやや長く細い。刺は少ないかまたはない。胸板はかなり幅広く心形でやや中凸。腹部はやわらかく強くキチン化していない。突起を有するものがある。

E. SCHENKEL (1936) は中国産の標本にもとづき *Pronous* に似た *Pronoides* という属を設けた。側眼の位置が *Pronous* より低い点で区別したのであるが、他の多くの標徴は *Pronous* と同じで、この程度のちがいでは属を分けるほどでもないであろう。しかしこオニグモドキは *Pronoides* にもっとも近似しており、属を細分的に扱うならば *Pronoides minutus* とも出来るが、筆者はこの二つの属は一つにまとめる見解をとっており、やはり *Pronous minutus* として扱う。

Pronous は SIMON によれば *Micrathaeae* に入れられているが、これは主として眼の排列や頭胸部の形態からで氏がことわっているように *Pronous* には *Micrathena* のようなよくキチン化した腹部もなければ、糸疣周囲のキチン壁もない。SIMON 自身が疑問を持ちながら *Gasteracanthinae* の *Micrathaeae* に入れているが、この所属に関してはなお検討の余地がある。コオニグモドキの標徴からは *Araneinae* に入れる方が妥当と思われる。

文 献

- 1) O.P. CAMBRIDGE, Proc. Zool. Soc. London, pp. 437-438, 1882.
- 2) E. SIMON, Hist. Nat. Araig., 1 (4), pp. 836-863, 1895.
- 3) E. SCHENKEL, Arkiv Zool., 29 (A), pp. 119-122, 1936.
- 4) A.F. ARCHER, Amer. Mus. Nov., 1487, pp. 15-17, 1951.
- 5) A.F. ARCHER, Ibid., 1922, pp. 14-15, 1958.

2. *Perenethis fascigera* (BOES. et STR., 1906)

ハヤテグモ

Tetragonophthalma fascigera, W. BOES. und E. STR., Abhand. Senck. Naturf. Ges. XXX, p. 306, 1906; S. SAITO, Fauna Nipponica, IX (2-2), p. 70, 1941; T. YAGINUMA, Spiders of Japan in Colour, p. 81, 1960.

Perenethis fascigera, C. Fr. ROEWER, Katolog der Araneae (2a), p. 118, 1954; Expl. Parc Nat. Upemba (Araneae : Lycosaeformia I), p. 167, p. 261, 1954.

ハヤテグモは日本で時々とれるが個体数はあまり多くはない。学名は従来 STRAND の命名に従って *Tetragonophthalma fascigera* が使用されて来た。これは STRAND が属決定的際に SIMON (1898) の記述によったためで、SIMON の記述した標徴や検索

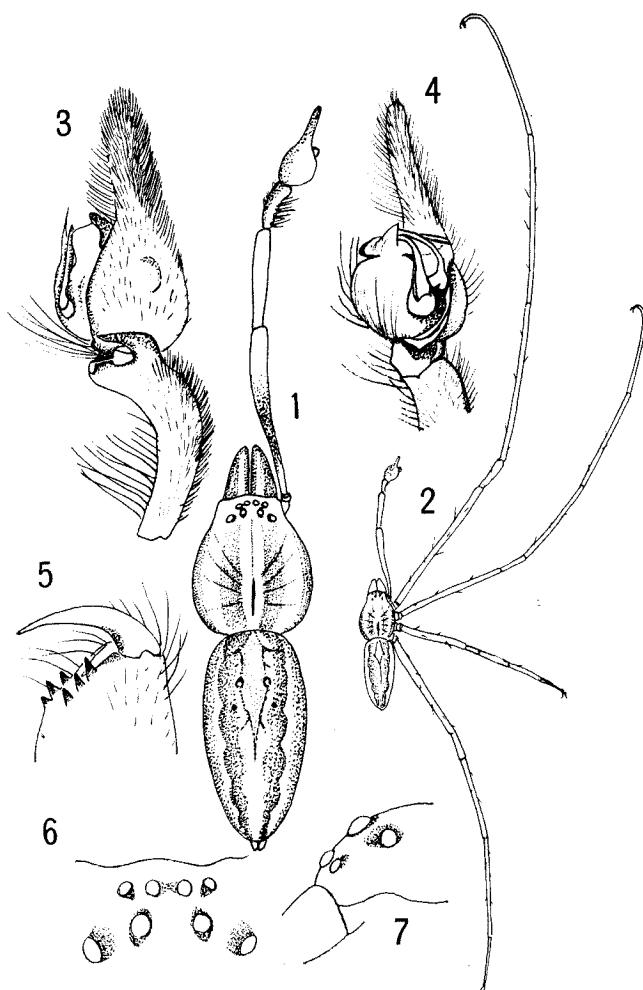


Fig. 2. *Hygropoda higenaga* (KISHIDA)

1. 2. Dorsal aspects (♂)	3. 4. Palp (♂)
5. Cheliceral teeth (♀)	6. 7. Eye area (♀)

28-VII-'62 Kōchi Pref. S. KOYAMA leg.

表からは *Tetragonophthalma* に属することとなる。しかしその後 ROEWER がベルリン博物館にある *Tetragonophthalma* のタイプ標本 *T. phylla* KARSCH, 1878 を検した結果, SIMON の *Tetra*. (以下このように略す) は KARSCH の *Tetra*. とは全く別属であることを確認し SIMON の記述の誤りを指摘した。彼はアフリカの多くの *Tetra*. やそれに近似のものを検し, さらに日本の *T. fascigera* をも検討して從来の *Tetra*. の多くは *Perenethis* とすべきことを明らかにした (1954)。KARSCH の *Tetra*. は SIMON の *Phalaea* SIMON, 1894 に当るもので, SIMON が *Tetra*. のシノニムとした *Perenethis* L. KOCH, 1878 は *Tetra*. とは区別して生かすべきこととなった。*Tetra*. と *Perenethis* の主要な相違は前者は後牙堤に 4 齒, 後者は 2 齒を有する点である。後牙堤の数は群によって重視されないことがあり, また ROEWER の分類は人為的な色彩が強いのであるが *Pisauridae* に関しては後牙堤歯は重視るべき標徴であり, また ROEWER のこれらの主張は受け容れるべきである。

Perenethis L. KOCH, 1888

後牙堤に 2 齒, 歩脚膝節背面に 1 本の刺がある。

Tetragonophthalma KARSCH, 1878

後牙堤に 4 齒, 歩脚膝節背面に刺がないか, 1 本の剛毛がある。

以上のことから日本のハヤテグモは *Perenethis* に入れるのが妥当である。

3. *Hygropoda higenaga* (KISHIDA, 1936)

ヒゲナガハシリグモ

Dolomedes higenaga, K. KISHIDA, Acta Arach., 1 (4), p. 119, 1936.

原記は簡単ではあるが要を得ており, 示された図からも同定可能なので Acta 記載のものを原記とみなして扱う。原記には「一見アオグロハシリグモに似ているが, さらに緑を強く帶びており, かつ雄の触肢では膝が脛より長く 2.5-3 倍もある。」とあり明瞭な背面図がある。広義で *Dolomedes* として扱われているが現今の分類では本種は次の理由で *Dolomedes* とは別の属におくのがよいと思われる。

<i>Dolomedes</i>	ヒゲナガハシリグモ
1. 後牙堤に 4 齒, 前牙堤に 2 齒	後牙堤に 3 齒, 前牙堤に 3 齒
2. 第 4 脚最長	第 1 脚最長
3. <i>Tarsus</i> は可撓的でない	<i>Tarsus</i> は可撓的である
4. <i>Clypeus</i> は前中眼径の 4 倍以上	<i>Clypeus</i> は前中眼径の 2 倍より小

ヒゲナガハシリグモは *Hygropoda* と *Voraptus* の性質を部分的にあわせ持っているが, 主要な点においては *Hygropoda* とすべきものである。

Hygropoda THORELL, 1894

現在まで10数種発見されており、東南アジアからは7種が知られている。

頭胸部は長さ>幅。額は傾斜する (*Voraptus* では垂直)。前列眼弱く前曲、後列眼は強く後曲。前中眼は前側眼より大きいが後中眼よりは小さい。中眼域は前辺<後辺、幅>長さ。後牙堤に3歯がある。歩脚細長で糸状の蹴節と跗節は可撓的である。歩脚式は1.2.4.3。

以上のことからヒゲナガハシリグモの学名を *Hygropoda higenaga* (KISHIDA, 1936) とする。

文 献

- 1) E. SIMON, Hist. Nat. Araig., 2 (2) pp. 315-216, 1898.
- 2) C. Fr. ROEWER, Expl. Parc. Nat. Upemba (Araneae : Lycosaeformia), pp. 397-398, 1954.

4. *Comaroma nakahirai* (YAGINUMA, 1959)

メナシヒメグモ

Archerius nakahirai, T. YAGINUMA, Acta Arach., 16 (2), p. 30, 1959 ; The Spider Fauna of Japan, p. 12, 1962.

本種は新種として発表前、筆者は *Comaroma* に属するものと判断して ATYPUS No. 13 の表紙にも *Comaroma sp.* と記したが、後アメリカの H. W. LEVI の指示により彼の新設せる *Archerius* のものとして記載した。*Archerius* と *Comaroma* は極めて近似した属で *Archerius* の新設にはいささか疑問を持ったが LEVI の教示を受けているので彼の意見に従っておいた。ところが最近 LEVI も自らたてた *Archerius* を *Comaroma* のシノニムとするのが妥当であると認めて *Archerius* を破棄した。このような事情からメナシヒメグモは最初の予定通り *Comaroma nakahirai* と落ち着いたわけである。

日本にはこのほか眼を有する *Comaroma maculosum* OI, 1960 が記載されている。

文 献

- 1) C. Fr. ROEWER, Tierwelt Mitteleuropas, III, p. 107, 1929
- 2) H.W. LEVI, Trans. Amer. Micro. Soc., LXXVI (2), p. 114, 1957.
- 3) H. WIEHLE, Tierwelt Deutschlands, 47, pp. 82-86, 1960
- 4) R. OI, Jour. Inst. Polytech. Osaka City Univ. D-11, pp. 184-185, 1960
- 5) H.W. LEVI, Bull. Mus. Comp. Zool., 127 (1), p. 18, 1962,

5. *Phoroncidia pilula* (KARSCH, 1879)

ツクネグモ

Sudabe pilula, F. KARSCH, Verh. ver. Rheinl., XXXVI, p. 63, 1879.*Theridion pilula*, W. BOES. & E. STR., Abhand. Senck. Naturf. Ges. XXX, p. 146, 1906 ; S. SAITO, Fauna Nipponica, IX (2-2), p. 179, 1941.*Gasteracantha sagaensis*, BOES. & STR., Abhand. Senck. Naturf. Ges. XXX, p. 239, 1906.*Ulesanis sagaensis*, K. KISHIDA, Iconog. Aran. Jap. vol. I, p. 88, 1936 ; S. SAITO, Fauna Nipponica, IX (2-2), p. 147, 1941.*Oronota pilula*, T. YAGINUMA, Spiders of Japan in Colour, p. 34, 1960 ; T. YAGINUMA, The Spider Fauna of Japan, pp. 13-14, 1962.

上のシノニムからも分るようにツクネグモの学名は♀♂別に次々と変遷して来た。その経過についてはすでに筆者(1961, 1962)が述べているのでここには省略しそれらを一括して表に示しておく。

KARSCH 1879	BOES. & STR. 1906	KUSHIDA 1936	YAGINUMA et LEVI 1960-2
<i>Sudabe pilula</i>	<i>Theridion pilula</i>	<i>Theridion pilula</i>	
	<i>Gasteracantha sagaensis</i>	<i>Ulesanis sagaensis</i>	} <i>Oronota pilula</i>

STRAND は *Sudabe* を *Theridion* とし、岸田は *G. sagaensis* を *Ulesanis* においた。後、八木沼は *pilula* は♀、*sagaensis* は♂であることを認め、両者同一種と見なし、当時 LEVI により検討された *Oronota* を古い有効属として、これらを *Oronota pilula* としてまとめた(1961, 1962)。ところがその後 LEVI はさらに世界各国の Type specimen を検した結果、*Oronota* は *Phoroncidia* に含ませるのが妥当として *Oronota* を *Phoroncidia* のシノニムにおとした。ようやくにして属名が落着いたので日本のツクネグモもそれに従って *Phoroncidia pilula* と変更せざるを得なくなった。わが国にはこの仲間は僅少なので分類学上の検討は困難であり、各地の標本を調べた LEVI の意見に従うよりはかない。今まで *Ulesanis*→*Oronota*→*Phoroncidia* といささか LEVI の動きに従って動搖させられた感があるが已むを得ないことである。

文 献

- 1) H.W. LEVI, Ann. Ent. Soc. Amer., 48 (5), p. 334, 1955.
- 2) H.W. LEVI, Bull. Mus. Comp. Zool., 127 (1), p. 26, 1962.

6. *Chrysso* (コガネヒメグモ) 属のクモ

日本には *Chrysso* 属として扱われるクモに次の 4 種が分っている。

- 1) *Chrysso venusta* (YAGINUMA, 1957) コガネヒメグモ
Argyria venusta, T. YAGINUMA, Acta Arach. 15, p. 11, 1957.
Argyroaster venusta, T. YAGINUMA, Ibid. 15, p. 37, 1958.
- 2) *Chrysso punctifera* (YAGINUMA, 1960) ホシミドリヒメグモ
Argyroaster punctifera, T. YAGINUMA, Spiders of Japan in Colour, p. 38, 1960.
- 3) *Chrysso vesiculosa* (SIMON, 1894) ヒシガタヒメグモ
Meotipa vesiculosa, E. SIMON, Hist. Nat. Araig., 1 (3), p. 514, 1894 ; T. UYEMURA (1939) ; S. SAITO (1941) ; T. YAGINUMA (1960, 1962).
- 4) *Chrysso argyrodiformis* (YAGINUMA, 1952) オダカグモ
Ariamnes argyrodiformis, T. YAGINUMA, Arach. News, No. 1, pp. 14-16, 1952.
Topo argyrodiformis, T. YAGINUMA, Spiders of Japan in Colour, p. 33, 1960 ; The Spider Fauna of Japan, p. 14, 1962.

Chrysso O.P. CAMBRIDGE, 1882 はアメリカ固有のものと考えられていたが、その後各地でこの属とすべきものが見出され、かつ *Chrysso* に統合あるいは転属すべきものも若干生じている。 *Chrysso* はかつて *Theridion* と統合されたこともあったが、現在では *Theridion* の範囲が狭められ、その *Theridion* からは明らかに区別され得る標徴を持つ別属として扱われている。これまで用いられた *Meotipa* や筆者の用いた *Topo* (EXLINE の指示に従ったが、EXLINE の *Topo* は *Twaitesia* に当るものとされている) は何れも *Chrysso* に当るものであり、また筆者のさきに立てた *Argyroaster* もその差がわずかなので *Chrysso* に含めることにした。

Type : *Chrysso albomaculata* O.P. CAMBRIDGE

Chrysso の標徴を次に記しておく。

中型のヒメグモ (1-5 mm), 背甲は幅よりわずかに長い。前列眼は弱く前曲、後列眼は端直または弱く前曲か後曲。前中眼間は眼直径に等しいか、よりやや広く、前中側眼間よりせまい。後中眼間は中側眼間よりせまい。全眼ほぼ同大または前中眼が他よりやや大 (なることもある)。上顎の長さは背甲長に等しい。前牙堤は無歯または 2-3 歯、後牙堤には時々若干の小歯がある。胸板の後端は切断状で第 4 脚間はその直径だけはなる。第 1 脚最長で各膝節の外側に突起がある。跗節には Comb がある。腹部は長さ > 幅または高さで、糸疣をこえて後方に突出する。間疣を欠く。外雌器は多少キチン化し開口部は不明瞭。1 対の貯精のうがある。

文 献

- 1) O.P. CAMBRIDGE, Proc. Zool. Soc. London, p. 429, 1882.
- 2) N. BANKS, Proc. California Acad. Sci., 1 (7), pp. 237-238, 1898.
- 2) H.W. LEVI, Jour. New York Entom. Soc., LXIII, pp. 59-81, 1955 ; Psyche, 69 (4), pp. 209-237, 1962 ; Bull. Mus. Comp. Zool., 27 (1), pp. 46-47, 1962.

RÉSUMÉ

In the previous publications (1960, 1961, 1962) by the author, many genera of Japanese spiders have been revised, but as a result of his further reexamination of type species and references, he found still more species placed in the wrong genera. The following names should be changed as given on the right.

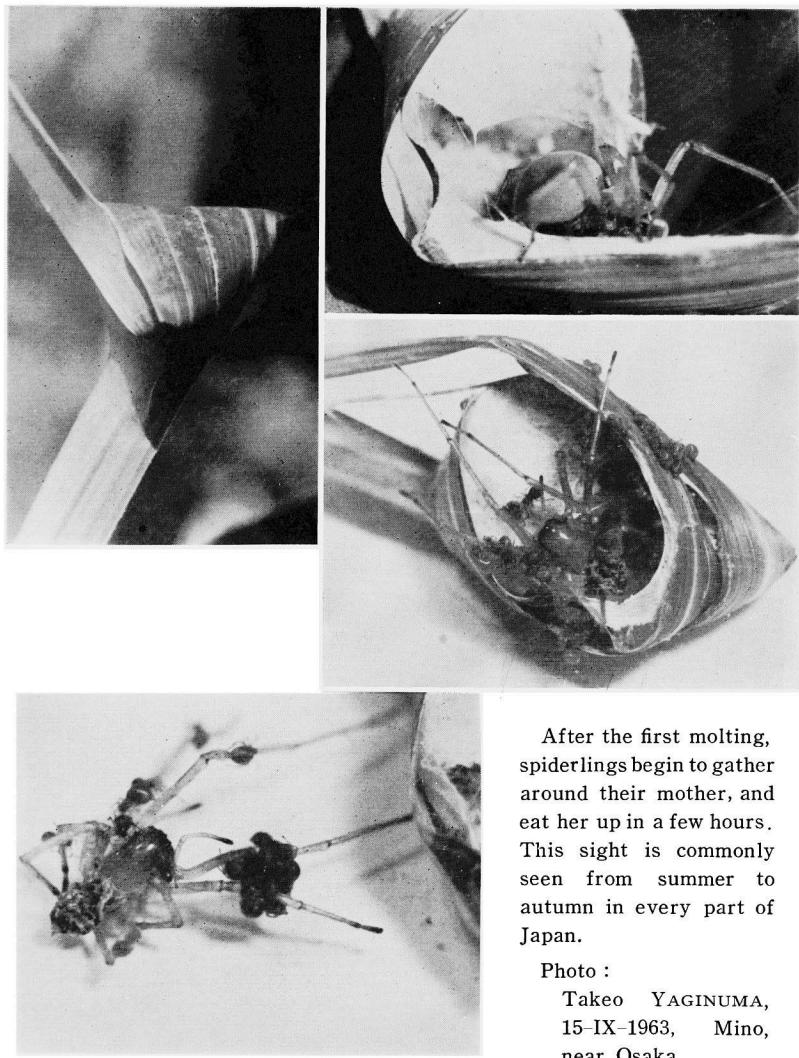
1. *Wixia minuta* SAITO → *Pronous minutus* (SAITO)
2. *Tetragonophthalma fascigera* BOES. et STR. → *Perenethis fascigera* (BOES. et STR.)
3. *Dolomedes higenaga* KISHIDA → *Hygropoda higenaga* (KISHIDA)
4. *Archerius nakahirai* YAGINUMA → *Comaroma nakahirai* (YAGINUMA)
5. *Oronota pilula* (KARSCH) → *Phorocnidia pilula* (KARSCH)
6. *Argyroaster venusta* YAGINUMA → *Chrysso venusta* (YAGINUMA)
7. *A. punctifera* YAGINUMA → *C. punctifera* (YAGINUMA)
8. *Meotipa vesiculosa* (SIMON) → *C. vesiculosa* (SIMON)
9. *Topo argyrodiiformis* (YAGINUMA) → *C. argyrodiiformis* (YAGINUMA)

本会役員	会頭	福井玉夫
評議員	岸田久吉	・ 斎藤三郎
編集委員	植村利夫	・ 関口晃一
会計・庶務	八木沼健夫	
会計監査	大井良次	・ 植村利夫

ACTA ARACHNOLOGICA
VOL. XIX, No. 2

昭和40年10月25日印刷・昭和40年11月3日発行
編集兼発行(代表者)大阪市東区京橋前之町2 追手門学院内 八木沼健夫
印 刷 者 大阪市福島区亀甲町2丁目62 小林穂造
印 刷 所 大阪市福島区亀甲町2丁目62 日本印刷出版株式会社
発 行 所 大阪市東区京橋前之町2 追手門学院内

東 亜 虫 蛛 学 会
電 話 (941) 3947・5929
振 薄 大 阪 18788番



After the first molting, spiderlings begin to gather around their mother, and eat her up in a few hours. This sight is commonly seen from summer to autumn in every part of Japan.

Photo :

Takeo YAGINUMA,
15-IX-1963, Mino,
near Osaka.

Spiderlings of *Chiracanthium japonicum* Boes. et STR. eating their living mother



Gynandromorph of a crab spider

Xysticus insulicola BOESENBERG et STRAND. Collector : Tatsumi
ARITA, 5-XII-1961, Inoko, Tottori City.

Photo : Takeo YAGINUMA



Images through the ocelli of a jumping spider
A microphoto of man's hand caught by the lenses of anterior
median eyes of *Marpissa roemerri* STR.

Photo : Seiji MATSUMOTO